

版画京都展実行委員会の方向性についてのこれまでの経緯

①2017. 3. 26 (臨時運営委員会)

- ・ 2018 年度の新委員長、事務局長の後任候補者が未定。運営委員以外での候補者募集を 7 月の総会に向け準備。

②2017. 5. 7 (運営委員会)

- ・ 委員長、事務局長を委員からの推薦者へも枠を広げる。
- ・ 会の運営を若い世代へシフトし、経験者がサポートしてはどうか。
- ・ 対外的に委員長は実績のある者の方がよいのではないか。

③2017. 6. 25 (運営委員会)

- ・ しばらく国際展の見通しが無い。
- ・ 今後については地域ブロック展を開催。会の資金はブロック展補助として支出し、国際展の要望が出たら再び資金を積み立てる。
- ・ 委員長候補として神野さん。黒崎先生より依頼してみる→辞退の返事。
- ・ 委員長もしくは事務局長を役員選挙で得票数の一番多かった片岡さんをお願いしてみる→辞退の返事。

④2017. 7. 23 (総会)

- ・ 委員長は引き続き黒崎先生、事務局長は武蔵先生。
- ・ 会の方向性について説明と理解のアンケートを実施することを決議。
- ・ 総会後に総会の報告として武蔵先生の文にて今後の方向性を示唆。
 - a. 概ね閉会の方向で考える
 - b. 継続か閉会かについては会員全員にアンケートを取る
 - c. 閉会にしてもオーストラリアお返し展と資金の消化に数年は存続
 - d. その間小品展、地域ブロック展の開催
 - e. 京都十景と会の閉会は分けて考える

⑤2017. 8. 20 (運営委員会)

- ・アンケートの内容の検討 (会の存続、閉会の意見も聞く)

⑥2017. 10. 14 (運営委員会)

- ・会の存続、閉会にかかわらず会の資産 (主に図録の在庫) を把握する必要性を確認。
- ・アンケート結果の報告。結果は存続 10、閉会 47、無記入 2 (回答率 51%)
回答率が低いため未回答者にメールで確認

⑦2017. 11. 12 (運営委員会)

- ・アンケートの再集計。結果は存続 18、閉会 57、無記入 4 (回答率 75%)

⑧2018. 1. 14 (運営委員会)

- ・閉会までの資金繰りを提示 (2023 年閉会を例として、花原)
- ・図録在庫の集計結果 1882 冊 (2017. 12. 20 現在)

⑨2018. 2. 11 (運営委員会)

- ・京都十景への運転資金 100 万円の貸付は京都十景現物 14 冊と相殺する。
差額 2 万円は現金で

⑩2018. 4. 8 (運営委員会)

- ・新事務局長は三田村さん、委員長は黒崎先生
- ・京都十景の第十集を待たずに会を閉会してもかまわない
- ・京都十景の発行に版画京都展実行委員会の名前は必要
- ・会の解散時期については今後の検討課題として持越し。

⑪2018. 6. 10 (運営委員会)

- ・2023 年閉会を前提とした資金計画、活動の縮小、経費の削減を提示
- ・資金が足りないなら閉会の時期を早め 2020 年にしてはどうか。
- ・委員会としては京都十景とともに 2023 年閉会の方向で話し合ってきた。

⑫2018. 7. 22 (総会)

- ・京都十景への貸付を物納にて相殺する件を説明 (予算案へ記載)、予算案の承認とともに承認されたものとする
- ・片岡さんより会員の活動支援としての JARFO の役割と、会の閉会后京都版画の名称の使用と JARFO での小品展開催の継続の申し出。